



(1) 「世代を超えた地球・人類の『トータル・ヘルスケア』の実現」
 時間（世代）=Total Life Course Healthcare・疾患=Total Disease Healthcare・空間（地域）=Total Community Healthcareを超えたトータル・ヘルスケアの実現に向けて研究力を強化、卓越したClinician ScientistとMedical Data Scientistを育成して、国際協働も推進することにより世界レベルのトータル・ヘルスケアを実現する、世界屈指の医療系総合大学を目指す。

(2) チーム医療入門
 将来の「多職種連携Ⅲ」に該当。東京医科歯科大学の最終学年学生と社会福祉士を目指す早稲田大学、上智大学の学生、薬剤師を目指す早稲田大学の学生が、学科混合のグループで話し合い、専門職連携の重要性、患者中心の医療の重要性を学ぶ。資料の検索、共有が簡単にでき、他大学からも参加しやすいオンラインワークショップを行い、口腔と全身に疾患のある患者さんの仮想シナリオを用いて、この患者さんをご治療・ケアするかの意見を述べあう。厚生労働省は2025年を目的として、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進している。本実習では、患者の視点を得るプログラムを導入しており、患者が求める医療について考える貴重な機会となっている。

(3) 四大学連合
 東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学と協力して2001年3月に発足。各大学が独立性を保ちながら密接な連携を図り、一大学ではなれない教育プログラムを提供している。さらに、それぞれ特徴的な研究領域を有する四大学の強みを活かして、四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアムを設立し、学生を交えて学際的な取り組みを進めている。

(4) TMDU Innovation park (TIP)
 東京医科歯科大学と三菱地所株式会社がより良い医療、より人々の健康が増進される社会の実現に向けて開設した、医療現場・研究現場発のイノベーションコミュニティ。多様な業種業界の企業・スタートアップ、行政によるコラボレーションを誘発し、医療・ヘルスケアイノベーションの実現を目指す。会員は東京医科歯科大学との共同研究や医療研究コンサルティング、各種専門家の紹介等のビジネス・研究サービスを受けることができる。1つの大学、1つの企業では思いつかないようなアイデアの創出をはじめ、プロジェクトを加速し、トータルヘルスケアイノベーションに取り組む。



このほか、医学科・歯学科の6年生が臨床の経験を活かしてともに学ぶ連携実習や学科を超えた合同症例検討会など、実臨床を念頭において種々の連携取り組みを行っています。

東京医科歯科大学は、リサーチユニバーシティとして数多くの世界最先端の研究を推進しています。優れた研究成果を上げることにとどまらず、その成果を「世代を超えた地球・人類の『トータル・ヘルスケア』の実現」に結びつけることを目標としています。

東京医科歯科大学では、医学・医療分野で世界を牽引するグローバルリーダーを育成するための各種プログラムを整備しています。新入生を対象に春に開催されるのがグローバルコミュニケーションワークショップで、国際保健問題などの事例を用いて、英語による模擬交渉を行います。デイスカッションカフェでは、本学学生と国内外の提携校の学生たちが一堂に会し、英語で徹底的に議論します。

「グローバルリーダー育成プログラム(HSLP)」は、完全英語履修のリーダー養成選抜プログラムで、学士課程でのグローバル人材育成のフラッグシップと言える取り組みです。生命科学研究・国際保健/医療

の学科専攻の視点にとられず、患者中心の全人的視点を身につけることを目的としています。

東京医科歯科大学は、リサーチユニバーシティとして数多くの世界最先端の研究を推進しています。優れた研究成果を上げることにとどまらず、その成果を「世代を超えた地球・人類の『トータル・ヘルスケア』の実現」に結びつけることを目標としています。

「社会的インパクトのある世界レベルの研究を推進」

「研究の自由」「科学的正しさ」「社会的インパクト」の3つをポリシーとして進めています。具体的な例として、医工連携に係わるものでは池内真志教授の「生体機能修復・支援のための精密医工学」、松元亮教授の「貼るだけ人工臓臓の実用化研究」、中島義和教授の「AIを活用した手術計画を検討するソフトウェアGRID」などが挙げられます。免疫感染症研究では、佐藤壮教授の「肺胞マクロファージを介したCOVID-19の重症化メカニズムの解明」、創薬部門では横田隆徳教授の「血液脳関門通過を可能にしたヘテロ核酸医薬の開発」など、枚挙にいとまがありません。

東京医科歯科大学では、医学・医療分野で世界を牽引するグローバルリーダーを育成するための各種プログラムを整備しています。新入生を対象に春に開催されるのがグローバルコミュニケーションワークショップで、国際保健問題などの事例を用いて、英語による模擬交渉を行います。デイスカッションカフェでは、本学学生と国内外の提携校の学生たちが一堂に会し、英語で徹底的に議論します。

早期学位取得を目指す「MD/PhDコース」「DDS/PhDコース」は、原則として医学科・歯学科4年修了時に大学院に進学し、学位取得後に学科に戻り卒業するというものです。

東京医科歯科大学では、医学・医療分野で世界を牽引するグローバルリーダーを育成するための各種プログラムを整備しています。新入生を対象に春に開催されるのがグローバルコミュニケーションワークショップで、国際保健問題などの事例を用いて、英語による模擬交渉を行います。デイスカッションカフェでは、本学学生と国内外の提携校の学生たちが一堂に会し、英語で徹底的に議論します。

「グローバルリーダー育成プログラム(HSLP)」は、完全英語履修のリーダー養成選抜プログラムで、学士課程でのグローバル人材育成のフラッグシップと言える取り組みです。生命科学研究・国際保健/医療

「研究の自由」「科学的正しさ」「社会的インパクト」の3つをポリシーとして進めています。具体的な例として、医工連携に係わるものでは池内真志教授の「生体機能修復・支援のための精密医工学」、松元亮教授の「貼るだけ人工臓臓の実用化研究」、中島義和教授の「AIを活用した手術計画を検討するソフトウェアGRID」などが挙げられます。免疫感染症研究では、佐藤壮教授の「肺胞マクロファージを介したCOVID-19の重症化メカニズムの解明」、創薬部門では横田隆徳教授の「血液脳関門通過を可能にしたヘテロ核酸医薬の開発」など、枚挙にいとまがありません。

東京医科歯科大学では、医学・医療分野で世界を牽引するグローバルリーダーを育成するための各種プログラムを整備しています。新入生を対象に春に開催されるのがグローバルコミュニケーションワークショップで、国際保健問題などの事例を用いて、英語による模擬交渉を行います。デイスカッションカフェでは、本学学生と国内外の提携校の学生たちが一堂に会し、英語で徹底的に議論します。



たなかゆうじろう
 田中雄二郎学長
 1980年、東京医科歯科大学医学部医学科卒業。1985年、同大学大学院医学研究科博士課程修了。1986年、米国マウントサイナイ大学附属アルコール研究治療センターリサーチフェロー。2001年、東京医科歯科大学医学部附属病院総合診療部教授並びに部長に就任。その後、同大学医歯学融合教育支援センター長、医学部附属病院長、理事・副学長などを歴任。2020年4月より現職。

〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 統合教育機構入試課 TEL 03-5803-5084 https://www.tmd.ac.jp/

国立大学で唯一の医療系総合大学である東京医科歯科大学は2022年4月、指定国立大学法人として新たなスタートを切りました。「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」ことを理念に、「世代を超えた地球・人類の『トータル・ヘルスケア』の実現⁽¹⁾」を目指して、医療の分野でグローバルリーダーとなる人材の養成に取り組んでいます。

これまでも患者さん中心のチーム医療を推進してきましたが、2023年度からは新たなカリキュラムを導入し、多職種連携教育を充実。また、リサーチユニバーシティとして異分野融合研究に力を注ぐとともに、コロナ禍で控えていた国際化の活動も今年度から活発化させています。なお、国立大学法人東京医科歯科大学は2024年度中を目途に国立大学法人東京工業大学と統合し、新大学「東京科学大学(仮称)」の設立を目指しています。

東京医科歯科大学

2022年、東京医科歯科大学は「世界屈指のトータル・ヘルスケア・サイエンスの拠点」という目標を掲げ、医療系に特化した大学として唯一の指定国立大学法人に指定されました。その構想によると、2033年度を目標に医学分野世界トップ50、歯学分野世界トップ10の歯学学拠点を構築し、トータル・ヘルスケアの実現に寄与するメディカルリサーチユニバーシティ(医療系研究型大学)になることを目指すとしています。

「世界屈指のトータル・ヘルスケア・サイエンスの拠点」という目標を掲げ、医療系に特化した大学として唯一の指定国立大学法人に指定されました。その構想によると、2033年度を目標に医学分野世界トップ50、歯学分野世界トップ10の歯学学拠点を構築し、トータル・ヘルスケアの実現に寄与するメディカルリサーチユニバーシティ(医療系研究型大学)になることを目指すとしています。

「多職種連携Ⅰ」では入学直後に全学科専攻の学生が一堂に会し、卒業までに学ぶこと、卒業後の活躍について講演やパネルディスカッションを通じて学び、医療系大学で学ぶ初学者としての自覚を持つことを目標としています。

トータル・ヘルスケアの実現を目指して 異分野融合研究と多職種連携教育を実践。 知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する

このほか、積極的な国際化を進めており、今年3月に発表されたクアクアレリ・シモンズ(QS)による「分野別QS世界大学ランキング」の歯学分野で日本第1位、世界第3位タイ。医学分野では日本第4位、世界第136位の高評価を獲得しています。

2012年度から「チーム医療入門⁽²⁾」、2020年度からは「チーム医療導入」をスタートさせ、患者中心の医療を学ぶ双方向型の授業を展開してきました。

「多職種連携Ⅱ」では入学直後に全学科専攻の学生が一堂に会し、卒業までに学ぶこと、卒業後の活躍について講演やパネルディスカッションを通じて学び、医療系大学で学ぶ初学者としての自覚を持つことを目標としています。

また、「多職種連携Ⅲ」では、チーム医療導入をさらに拡充し、「自らが患者になったら」という仮想シナリオで学科混合のグループで議論、発表会を行います。保健衛生学科看護学専攻、検査技術学専攻、口腔保健学科口腔保健衛生学専攻は2年生、医学科、歯学科、口腔保健学専攻は3年生で、それぞれ開講予定です。「多職種連携Ⅲ」は、チーム医療入門を発展させ、各学科での臨床実習で学んだ経験を共有しながら議論を深め、自分

「多職種連携Ⅲ」では入学直後に全学科専攻の学生が一堂に会し、卒業までに学ぶこと、卒業後の活躍について講演やパネルディスカッションを通じて学び、医療系大学で学ぶ初学者としての自覚を持つことを目標としています。